

SPS研究所の株式投資支援システム

ストックスプレッド・ビジネス版

(操作方法と解説・売買手順)

- version 2.0 -

Windows 版



SPS研究所

ホームページ <http://spsnet.jp>

メールアドレス spsnet@spsnet.jp

目次

本システムのご利用にあたって.....	2
「裁定取引」の理論.....	3
「裁定取引」の概念.....	4
ETFとは.....	6
本システムの特徴および構成.....	8
画面の操作および解説	9
メニューバー.....	9
メインフォーム.....	13
チャート.....	19
指数の見方(個別銘柄).....	20
指数の見方(サヤ指標)「裁定取引」は除く.....	21
チェックリスト.....	23
資金配分.....	25
持株管理.....	27
組合せ選択「裁定取引」は除く	30
「株価水準・業績水準」.....	30
「信用残・取組比率」.....	30
資本金について.....	31
売買システム	32
「裁定取引」システム.....	32
「指定組合せ」システム.....	35
「任意組合せ」システム.....	38
売買手順	42
「裁定取引」の売買手順.....	42
「指定組合せ」「任意組合せ」の売買手順.....	46
禁止事項	48
注意事項	48

本システムのご利用にあたって

本システム「ストックスプレッド・ビジネス版」は、「裁定取引(アービトラージ)」を中心に株式投資にヘッジ(保険)を取り入れ、きわめて安全性を重視した株式投資システムです。

従来「裁定取引」は主に機関投資家が主体となって運用されてきましたが最近、指数連動型投信(ETF)が発売され、個人においても「裁定取引」による株式投資が可能となりました。

「裁定取引」は市場指数(日経225等)と個別銘柄を組み合わせで売買するシステムで、株式投資の「王道」と言われる、きわめて安全性が高く理論的に裏づけされた株式運用モデルです。相場の変動に左右されず安定的な利益の積み上げが可能な売買手法です。

相場の世界で成功者といわれるジョージ・ソロスも裁定取引を中心とした売買を行っていたことはあまりにも有名です。

「裁定取引」は市場指数を利用するため非常に大きな資金でも運用が可能で、資産運用やビジネスとして最適なシステムです。

「ビジネス版」は非常にレベルが高く、やや難解な部分もありますので、ある程度の投資知識があり投資経験の豊富な方にお勧めいたします。

また「ビジネス版」には、個別銘柄のペアで売買を行う「サヤ取り(指定組合せ)(任意組合せ)」も備わっており、あらゆるバリエーションがご利用頂けます。

本格的な資産運用をお考えの方には、本システムを完全にマスターいただけるまで責任を持ってサポートいたします。理解が進まない点がございましたらご遠慮なくお問合せ下さい。

ご注意

本システムは、非常にレベルの高く難解な部分もありますので、理解が進まないまま自己流での売買は避けてください。不明な点は必ずご質問下さい。ご理解頂けるまで責任を持ってサポートいたします。

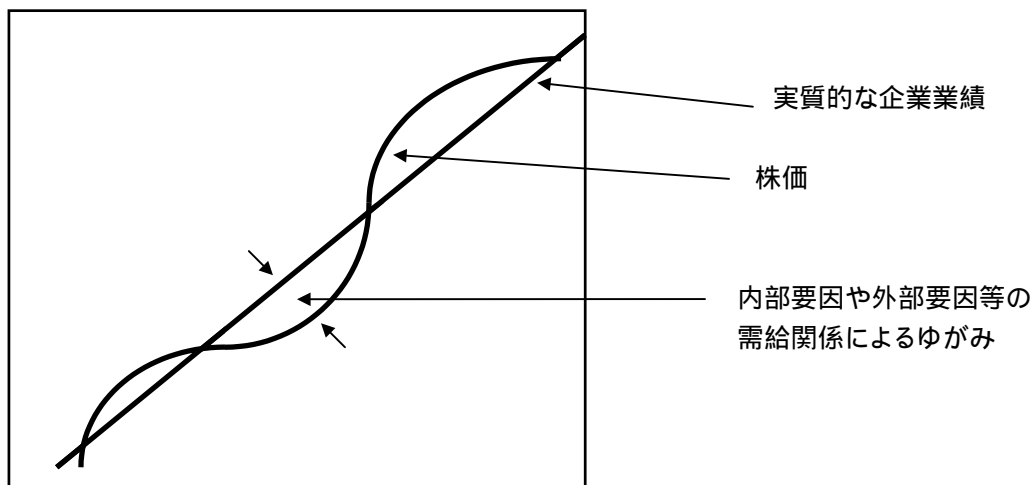
本システムは通信回線を利用しているため、システムダウンなどによりデータの遅延やデータの更新ができない場合もあります。あらかじめご了承下さい。

本システムは、株式投資家のための「株式投資支援システム」であり、最終的な投資判断は投資家自身で行ってください。

「裁定取引」の理論

株式投資における企業業績と株価の関係は「最終的に株価は、その企業の業績内容に収斂する」といわれています。

これは株式投資の原点となる理論です。株価は、企業の業績内容に追従する形で変動しています。これらの上下の変動の要因は市場内部要因や外部要因等により実質的な企業業績からカイリして上下変動し、一時的には売られすぎ、買われすぎといった現象が起こります。



当システムの業績水準や株価水準は、市場平均を軸とする考え方であるということはすでに解説してありますが、これらの市場平均を軸とする考え方は「裁定取引」や「サヤ取り」における銘柄間の比較には非常にその効果を発揮します。

当システムの「裁定取引」はETF（指数連動型投信）を売りとし、個別銘柄を買いとして、そのサヤを取るわけですが、このETF（指数連動型投信の日経平均型やTOPIX型）は市場平均値を表しています。当システムの業績水準の市場平均値は「5」ですから、ETF（指数連動型投信の日経平均型やTOPIX型）の業績水準は理論的には「5」ということとなります。

同様に当システムの株価水準の市場平均値は「1」ですから、ETF（指数連動型投信の日経平均型やTOPIX型）の株価水準は理論的には「1」ということとなります。

業績水準が「8」の銘柄は、市場平均より業績は良いと言えます。

株価水準が「0.8」の銘柄は、市場平均より株価は安い位置にあると言えます。

たとえばETF（指数連動型投信）を売り、業績水準が「8」、株価水準が「0.8」の銘柄を買い付けを同時に行なったとします。その後の展開はどのようになるでしょうか。

買い銘柄は業績水準が市場平均以上で株価水準は市場平均以下です。

上記の解説にありますように内部要因や外部要因により一時的に業績の実質的な水準からカイリする場合があります。これらは市場の一時的な「ゆがみ」と捉えています。

このような市場の一時的な「ゆがみ」を捉え、買い銘柄として仕掛けます。買い銘柄の業績水準は「8」ですから、上記の理論に基づきますと「最終的に株価は、その企業の業績内容に収斂する」ということになりますから、時間の経過とともにその銘柄の株価は収斂して、実質水準である業績水準「8」ポイントの位置に回帰することになります。

「8」ポイントの位置に回帰するということは、この時点でETF(指数連動型投信)と買い銘柄を同時に決済することにより利益が発生することになります。

持続期間中に暴落などで株価が下げることがあっても、下げるのは買い銘柄のみではなくETF(指数連動型投信)も同様に下げるわけですから、その差には大きな変化はないはずです。買い銘柄の業績内容に変化がないかぎり、市場平均値に対して「8」ポイントは変わらないわけですから時間の経過とともにその水準に収斂して回帰することになります。結果的に利益を生むこととなります。

以上が当研究所の「裁定取引」「サヤ取り」に対する投資理論です。

「裁定取引」の概念

「裁定取引」とは、市場間の価格差を利用して利益を得る取引を言います。一般的には、「市場指数(日経平均等)を売り、現物株式の買い」のポジションを設定して売買を行います。

株式市場において常に市場指数(日経平均等)を売りヘッジとして利用し、市場平均値より割安な銘柄を「買い」としてこれらを仕掛け、市場リスクをできるだけ軽減して運用する売買手法です。常に市場指数(日経平均等)を組み合わせることで売買を行うものです。株式投資に保険(ヘッジ)という概念を取り入れた売買手法です。

市場平均より割安な現物株を買い、市場指数(ETF)等を売り、これら適正に構成されたポートフォリオは相場動向に左右されることなく時間の経過と共に安定した収益をはかることができます。一方の損は他方の利益でヘッジするといったきわめて安全性の高い売買手法です。売買の時期を選ぶ必要がなく、いつでも売買が可能となるため年間を通して安定的な収益をもたらしてくれます。

「裁定取引」において「買い銘柄は業績が上昇傾向で株価の位置は安い」ということが条件となります。しかし株式市場は効率的な市場と言われ、そのような都合の良い銘柄は無いように思われますが、時には買われすぎ売られすぎの銘柄が発生するのも現実です。

このような一時的な市場の「ゆがみ」を利用し、これらの銘柄を効率よく組み合わせ、売買することによってより安全性の高い安定した収益をはかることが可能となります。

株式投資は、その正しい理論から外れていても一時的に大きな利益を上げることもあると思います。し

かし理論的な裏付けのない投資法では、長期間の運用には絶えられず最終的には破綻します。

株式投資では、投資理論に裏付けされた売買手法により長期的に利益を積み上げて行くことが、最終的には勝利者になれるのではないのでしょうか。

ETFとは

株価指数型上場投資信託(Exchange Traded Funds 略称:ETF)とは、日経平均株価や東証株価指数(TOPIX)といった株価指数に連動し、2001年7月から証券取引所に上場された新しいタイプの投資信託です

特徴

株価指数への連動を目指します。
市場の値段でタイムリーに売買できます。
手数料や取引方法は株式と同じです

概要

購入・売却できる場所
証券会社

取引時間

取引所の立会時間中であればいつでも売買可能。

売買価格

取引所の取引価格。もちろん、指し値でのご注文もできます。

売買単位

日経平均株価指数に連動するファンド...10口単位
TOPIXに連動するファンド...100口単位

購入に必要な金額(例)

日経平均株価指数に連動するファンドの場合
仮に日経平均が13,000円とし、ETFの価格も同水準とすると、
「13,000円×10口=130,000円+売買委託手数料」となります。

購入・売却時のコスト

取扱各証券会社が定める手数料及び当該手数料にかかる消費税等に相当する金額。

元本及び分配金等が保証された商品ではありません。

税金(個人の場合)

売却時...「申告分離課税」もしくは「源泉分離課税」のどちらかの選択制。

・「申告分離課税」を選択した場合

年間を通じて利益があった場合には、26%(所得税20%、地方税6%)の税率で課税されます。

・「源泉分離課税」を選択した場合

売却時の損益にかかわらず、売却代金の1.05%に相当する所得税が源泉徴収されます。

収益分配時...収益分配金の受取り時には、20%の所得税が源泉徴収されます。

・1回当たりの受取り金額が10万円以下の場合
確定申告の必要はありません。

・1回当たりの受け取り金額が10万円超の場合
確定申告の必要があります。なお、確定申告を行なった場合には、株式の配当金と同様に配当控除の適用を受けることができます。

・収益の分配は原則として配当等収益から信託報酬(社によって異なります)等、経費を控除した額の全額を分配します。

ETFも株式と同様に、申告分離課税の適用における長期所有上場株式等の譲渡所得に対する100万円特別控除制度の対象となっています。

仕組み(概要)。

投信会社が証券会社や機関投資家から指数を構成する株券の拠出を受けて設定します。次に、株券を拠出した証券会社などは投信の持ち分を示す受益証券を受け取ります。これが、取引所に上場することになります。(すでに上場している「日経300投信」は現金との「交換」が可能です。ETFは「交換」だけでなく、「現物株式による追加設定」が行なわれるのが特徴です。)

詳細については、取扱証券会社にお問い合わせください。(資料提供 投資信託協会)

本システムの特徴および構成

本システムの特徴

本システムは従来のシステムと違い投資家自身が判断して使用する指標は一切ありません。仕掛けから決済まで表示されている指標により判定を行う独自のシステムとなっています。

本システムはすべて「売買ルール」が定めてあり、それらの基準に沿って売買できるよう設計されています。

本システムはすでに「裁定取引」や「サヤ取り」に適した仕掛け可能な銘柄がリストされていますので更に条件を絞り込み、容易に仕掛け組合せ銘柄を選択することが可能です。

組み合わせられた銘柄のリスク度、および組み合わせられた銘柄間のリスク度に応じて、それぞれ適正に資金配分ができるよう設計されています。

組合せ銘柄の選択基準や仕掛け基準は数値によるルールが決められていますので、「裁定取引」や「サヤ取り」の概要を理解できれば売買は可能であると考えます。

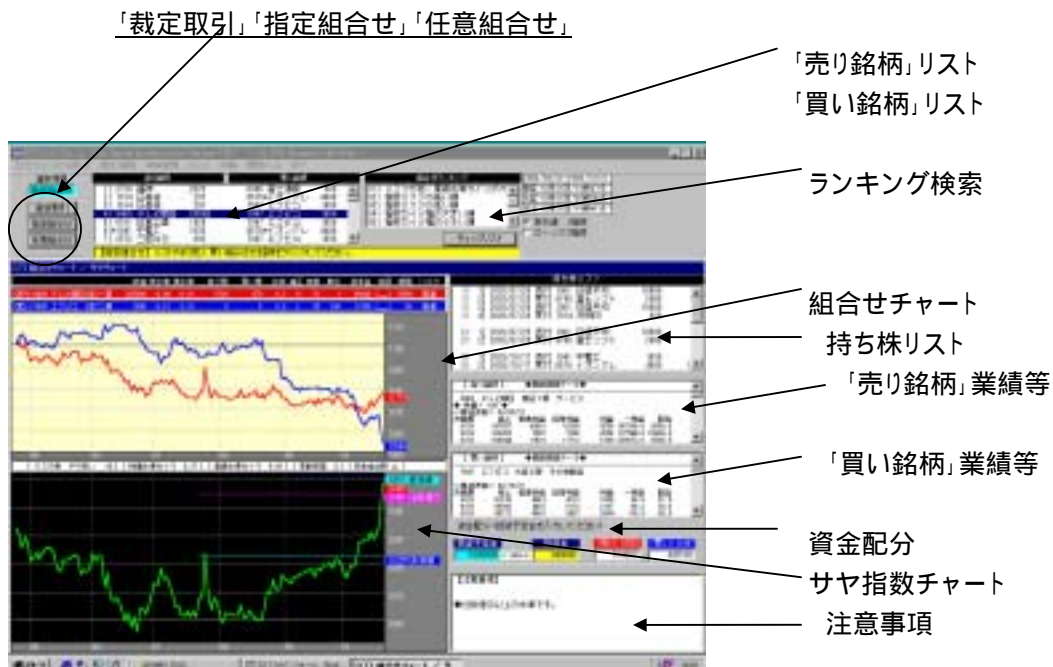
本システムの構成

本システムは、3種類のシステムで構成されています。

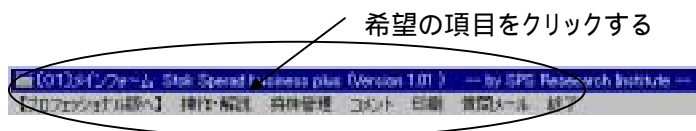
1. 「裁定取引」システム。
市場指数(先物、ETF等)を利用し、常に市場指数を組み合わせで売買を行うシステムです。市場指数銘柄を売り、個別銘柄を買いとして提供しています。
市場指数銘柄を売りに対して、複数の個別銘柄を買いポートフォリオを組むことにより安定的な収益が可能となります。
2. 「指定組合せ」システム
個別銘柄の「サヤ取り」システムです。割り高銘柄と割り安銘柄をペア組にして売買を行います。あらかじめ「サヤ取り」に適した条件の下に選び出された組合せ銘柄を提供しています。
3. 「任意組合せ」システム
個別銘柄の「サヤ取り」システムで、割り高銘柄と割り安銘柄をペア組にして売買を行います。売り銘柄と買い銘柄は業績を基準に分類されています。
業績が市場平均以下の銘柄を売り銘柄とし、市場平均以上の銘柄を買い銘柄としてリストしてあります。自由に組み合わせ銘柄を選択することができます。

画面の操作および解説

操作画面



<< メニューバー >>



メインフォームの最上部に配置表示されています。

「プロフェッショナル版へ」

「ビジネスプラス版」のみの表示です。

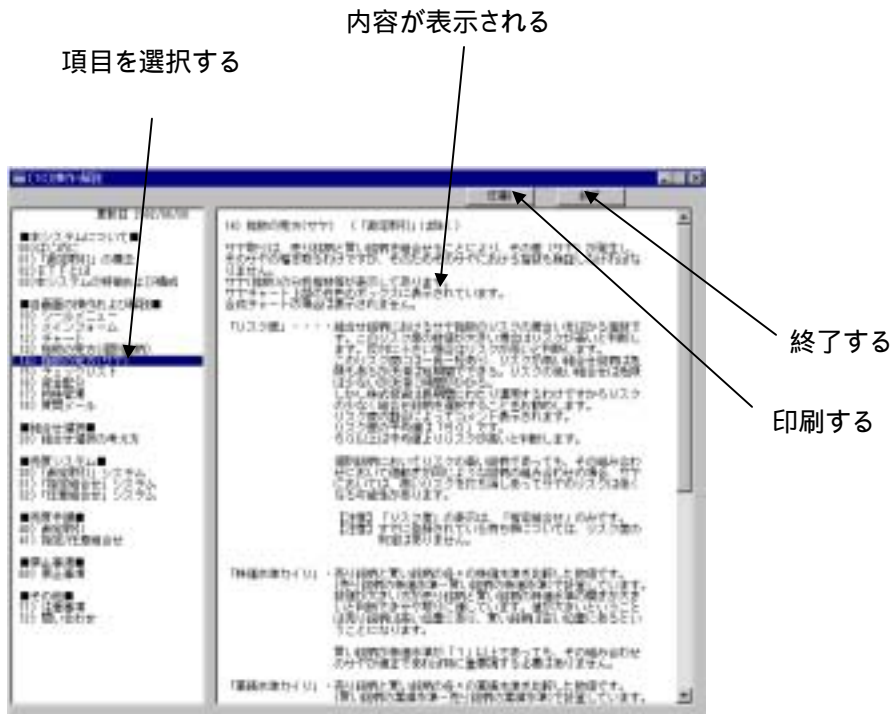
「ビジネス版」には表示されません。

「プロフェッショナル版」が表示されます。

個別銘柄のチャートや業績詳細、目標値、抵抗線等が表示されます。

「ビジネスプラス版」をご利用いただいている方のみのご利用となります。

「操作・解説」 本システムの操作方法やその解説が掲載されています。必ず読んで理解してください。



「持株管理」 組み合わせ銘柄の登録や訂正、削除、追加ができます。個別の成績や組み合わせ合計の成績、持ち株全体の合計や成績が表示されます。「決済」の指示が表示されます。登録された組み合わせ銘柄は、メインフォームの「持ち株リスト」に表示され、クリックするとチャートが表示されます。

銘柄	数量	取得単価	取得日	売却単価	売却日	売却数量	売却金額	売却手数料	売却利益
101	100	1,000	2002/01/01	1,000	2002/01/01	100	1,000,000	0	0
102	200	1,000	2002/01/01	1,000	2002/01/01	200	2,000,000	0	0
103	300	1,000	2002/01/01	1,000	2002/01/01	300	3,000,000	0	0
104	400	1,000	2002/01/01	1,000	2002/01/01	400	4,000,000	0	0
105	500	1,000	2002/01/01	1,000	2002/01/01	500	5,000,000	0	0
106	600	1,000	2002/01/01	1,000	2002/01/01	600	6,000,000	0	0
107	700	1,000	2002/01/01	1,000	2002/01/01	700	7,000,000	0	0
108	800	1,000	2002/01/01	1,000	2002/01/01	800	8,000,000	0	0
109	900	1,000	2002/01/01	1,000	2002/01/01	900	9,000,000	0	0
110	1,000	1,000	2002/01/01	1,000	2002/01/01	1,000	10,000,000	0	0

仕掛けた組み合わせ銘柄を登録し、決済や増玉の判定や成績の管理等を行います。
持株管理は、持ち株をグループ化することによって「裁定取引」と「指定組合せ」および「任意組合せ」それぞれの持ち株を混在で管理することができます。

「新規登録」……新規に売り、買い銘柄を登録します。必ずペアで入力します。

「訂正」……間違って入力された銘柄を訂正します。

「削除」……決済済みの銘柄や入力ミスの銘柄を削除します。

「追加(増玉)」……増玉があった場合に同一組み合わせ銘柄を追加入力します。
増玉の場合必ず同じグループに入力してください。

「キャンセル」……銘柄登録時等において間違って入力された場合にキャンセルします。

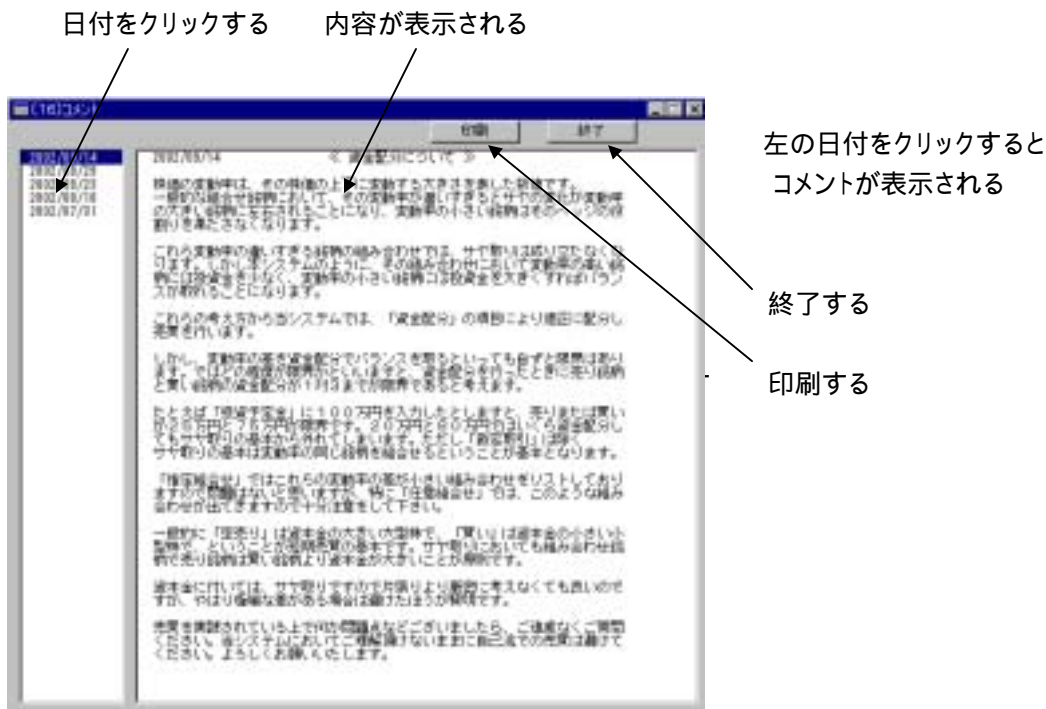
「持株リスト」……登録された組み合わせ銘柄が表示されます。
組み合わせ銘柄の「指数」や「決済」、「増玉」の指示が表示されます。
個別銘柄の成績や組み合わせ銘柄ごとの成績や全体の成績が表示されます。

「印刷」……持ち株のリストを印刷します。

「終了」……持ち株管理を終了します。

【注意】「裁定取引」で銘柄を入力する場合、最初は「新規登録」でペアで入力します。追加する場合は「追加(増玉)」で同じグループに売り、買い一銘柄ずつ追加してください。

「コメント」 当研究所からのメッセージが表示されます。
本システムの利用の方法や売買技法等が解説されます。



「印刷」 表示されているチャート画面を印刷することができます。

【質問メール】 本システムの操作方法や指標の見方、売買法などについて理解できない点や不明な点についてメールで質問することができます。



本システムの操作方法や指標の見

売買法などについて理解できない点
や不明な点についての質問すること
ができます。

本システムが理解できるまでサポ
ートいたします。

メールにて回答いたします。

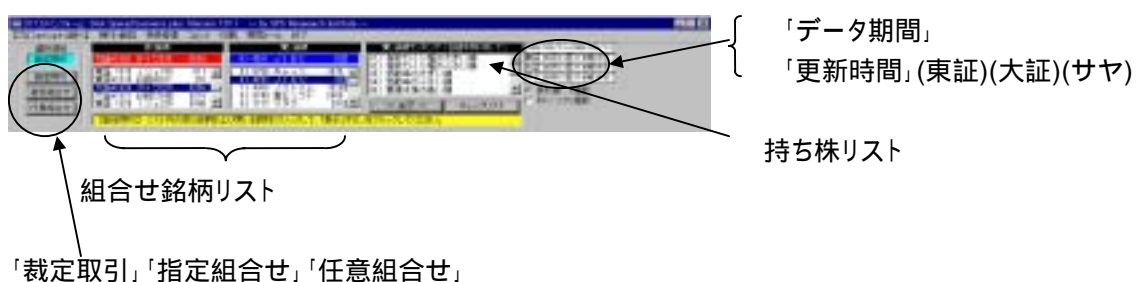
名前、メールアドレス入力の上、送

信下さい。

「終了」 本システムを終了します。
変更された画面サイズはそのまま保存されます。

<< メインフォーム >>

メインフォーム上で各種ボタン操作や各指標、チャート等の表示を行います。



「データ期間」・・・チャート表示される日足データの期間です。(6ヵ月間)

「更新時間」(東証)・本日の株価データが更新された時間を表示します。
本システム利用時には必ず確認してください。

「更新時間」(大証)・本日の株価データが更新された時間を表示します。
本システム利用時には必ず確認してください。

[注意] 大証銘柄のETF([1320 ダイワ225][1321 日経225投])の銘柄
は本日の株価データが更新されていない場合は正しく表示され
ませんのでご利用の際には必ず確認してください。

「更新時間」(サヤ)・本日の組み合わせ銘柄が更新された時間を表示します。
本システム利用時には必ず確認してください。

[注意] 株価データと組み合わせデータは別々に作成されていますので
どちらの更新時間も確認してください。

「東証」「大証」「サヤ」の更新時間が本日の日付となっていることを必ず確認してください。

組合せ銘柄リスト

コード番号の前の「*」は、持ち株として登録されている銘柄です。
株価の後の「#」は、株価単位が異なる銘柄です。

「裁定取引」・・・「売り銘柄」リストには、市場指数(先物、ETF等)が表示されます。「買い銘柄」リストには、市場指数に対して株価カイリのある銘柄がリストされています。

「買い銘柄ランキング」の項目をクリックすることにより「買い銘柄」が上位よりランキングされます。

「売り銘柄」リストおよび「買い銘柄」リスト内の銘柄をクリックし、表示ボタンをクリックすることにより組合せチャートおよびサヤのチャートが表示されます。

「指定組合せ」・・・「売り銘柄/買い銘柄」リストに「サヤ取り」の条件をクリアした組合せ銘柄が表示されます。「組合せランキング」により組合せ銘柄を各項目のランキング順に表示することができます。組合せ銘柄をクリックすることにより組合せチャートおよびサヤのチャートが表示されます。

「任意組合せ」・・・「売り銘柄」リストには、業績水準が市場平均(5ポイント)より下降傾向の銘柄がリストされます。「買い銘柄」リストには、業績水準が市場平均(5ポイント)より上昇傾向の銘柄がリストされます。
「売り銘柄検索」または「買い銘柄検索」にチェックマークを入れ、検索項目をクリックすることにより上位よりランキングされます。

「売り銘柄」リストおよび「買い銘柄」リスト内の銘柄をクリックし、表示ボタンをクリックすることにより組合せチャートおよびサヤのチャートが表示されます。

「持株リスト」・・・「持株管理」に登録された銘柄をリストします。表示された組み合わせ銘柄をクリックすると一旦「売り銘柄」「買い銘柄」リスト内表示されます。それらをクリックすることによりチャートが表示されます。

複数の組合せ銘柄の場合は「合成チャート表示」ボタンが表示されます。クリックするとそれらの合成チャートが表示されます。

チャート表示の種類

「折れ線/指数」・ チェックマークを入れることによって、組み合わせられた銘柄を折れ線グラフ(上段)に、指数のグラフ(下段)にそれぞれ表示されます。
売り銘柄は赤色。買い銘柄は青色。



「ローソク/指数」・ チェックマークを入れることによって、組み合わせられた銘柄をローソク足グラフ(上段)に、指数のグラフ(下段)にそれぞれ表示されます。



「チェックリスト」ボタン

チェックリストボタンをクリックすると、選択されている組み合わせ銘柄の各指数や注意事項が表示されます。
合成チャートの場合には表示されません。



「売り銘柄指標」・組み合わせチャート上部の赤色のボックスに売り銘柄の各指数が表示されます。合成チャートの場合には表示されません。

「買い銘柄指標」・組み合わせチャート上部の青色のボックスに買い銘柄の各指数が表示されます。合成チャートの場合には表示されません。

「サヤ(指数)指標」・サヤ(指数)チャート上部の白色のボックスにサヤ指数が表示されます。合成チャートの場合には表示されません。

「合成チャート表示」ボタン

メインフォームに表示されている「持株リスト」の中で、売り、買い複数の組み合わせをクリックした場合に表示されます。それ以外の場合には表示されません。



資金配分

資金配分 (投資予定金を入力してください)

投資予定金	投資金	<売り> 0.553	<買い> 0.447
1000000 × 94% =	940000	519820	420180

組み合わせられた銘柄のリスク度および組み合わせられた銘柄間のリスク度により、資金配分を行います。

「裁定取引」の場合は、複数の銘柄に投資される分の一組分の金額を「投資予定金」に入力します。たとえば総投資額1000万円とし、それらを10分割で仕掛ける場合は1000000(百万)と入力します。

組合せ銘柄のチャートを表示すると、その組合せ銘柄による投資金額が「投資金」に表示されます。リスクの高い組合せの場合は投資予定金から減額されて表示されます。

また組み合わせられた各銘柄の資金配分も指定されます。資金配分金額がそれぞれ「売り」「買い」の欄に表示されます。リスクの高い銘柄は資金配分は小さくなります。

株価や株数の関係ですべて表示された金額で仕掛けることはできないと思われませんが、できるだけ指定された資金配分のバランスで仕掛けるよう心がけてください。

「指定組合せ」の銘柄や「任意組合せ」の銘柄はペアでの仕掛けとなりますので同様に売り、買い銘柄の資金配分のバランスに心がけてください。

業績詳細データ

【 買い銘柄 】		◆業績詳細データ◆				
7947 エフピコ 大証2部 その他製造						
<<単独決算>> 02/10/21						
決算期	売上	営業利益	経常利益	利益	一株益	配当
8/03	81810	4061	4113	1889	90.0	27.0
9/03	88926	4887	5172	2137	99.2	30.0
0/03	95172	4901	5427	2804	119.8	36.0

【 売り銘柄 】		◆業績詳細データ◆				
9409 テレビ朝日 東証1部 サービス						
◆株価×100◆						
<<単独決算>> 02/05/27						
決算期	売上	営業利益	経常利益	利益	一株益	配当
8/03	197557	10081	10260	4750	197388.0	8500.0
9/03	183265	7087	7206	3056	117544.0	10000.0
0/03	188844	11691	11712	6189	238073.0	8500.0

選択された売り銘柄、買い銘柄の業績の詳細を表示します。
 単独決算、来期予想を含め6期分。連結決算、来期予想を含め6期分。

指 標

資本金や借入金、PER、PBR等の各指標の表示。

権利落データ

権利落の日付や種別、割当率、落ち日等の情報が記載されます。

株価データ(6ヶ月)

選択された銘柄の株価(6ヶ月間)の高値、安値の日付や値幅、日数等の詳細なデータや出来高の最高、最低、平均値を表示します。

株価データ(2年)

選択された銘柄の株価(2年間)の高値、安値の日付や値幅、日数等の詳細なデータや出来高の最高、最低、平均値を表示します。信用残の最高、最低値を表示します。業績の表示は東証銘柄のみです。東証銘柄でも一部表示できない銘柄もあります。

注意事項

チャート表示された組合せ銘柄について注意事項をコメントします。
 現在のサヤ水準の表示や決済の指示、業績水準が変化した場合の注意等が表示されます。

【注意事項】
◆このサヤ水準は決済水準です。
◆買い銘柄の業績水準は不合格です。

<< チャート >>

組合せチャート



折れ線グラフの場合、売り銘柄は赤色、買い銘柄は青色で株価データ6ヶ月分を表示します。これらのチャートは、すべて指数化して表示されています。6ヶ月前の株価を「1」として相対的な株価表示となっています。

たとえば6ヶ月前の株価の終値が500円とします。その後の株価が550円としますと、その550円の株価は「1.1」と表示されます。(1.1=550÷500)このように6ヶ月前の株価を「1」として、その後の株価をすべて指数化してあります。

ローソク足でも表示されます。ローソク足も同様に指数化して表示してあります。

サヤ指数チャート

売り銘柄の指数と買い銘柄の指数のサヤを独自の手法で分析して、仕掛け値や決済値、増玉値を表示してあります。実際の売買には、この「指数」により売買の判定を行います。



本システムの仕掛け、決済の基準は従来のような単純な「サヤ = (売り銘柄株価 - 買い銘柄株価)」の算出による手法は取っていません。

「ペア」によるチャート表示は、チャートは「緑色」で表示されます。背景は黒色。「合成チャート」によるチャート表示は、チャートは「黄色」で表示されます。背景は紺色。

<< 指数の見方(個別銘柄) >>

個別銘柄の分析指標等を表示してあります。

組み合わせチャートの上部に赤色(売り銘柄)と青色(買い銘柄)のボックスに表示されています。合成チャートの場合は表示されません。

07) 組合せチャート / サヤチャート																	
			終値	株水準	業水準	売り残	買い残	比率	適正	変動	単位	資本金	採用	額面	リスク		
【売り銘柄】	6761	アイワ	(信)	一部	266	0.91	0.10	135	444	3.3	3	55	100	55611	(_5)	50	[普通]
【買い銘柄】	7914	共同印	(信)	一部	428	0.73	6.10	622	3061	4.9	4	59	1000	4510	(_3)	50	[やや高い]

「株価」……本日の終値です。

「株水準」……株価水準の数値です。

TOPIXをベンチマークとし、その値動きを「1」としています。個別銘柄において数値が「1」より大きい場合は、その銘柄は市場平均より割高であると判断します。反対に「1」より小さい場合は、市場より割安であると判断します。

「業水準」……業績水準の数値です。

業績の各項目(売上、経常益、一株益、配当…28項目)を分析し、全銘柄を集計し、それらを「0～10」までのランク付けをしています。業績の市場平均値は「5」となります。業績水準が「5」以上の銘柄は市場平均に対して「良い」ということとなります。反対に「5」以下の銘柄は市場平均に対して「悪い」ということとなります。業績水準は、来期予想を含め単独決算3期分の推移で計算しています

【注意】業績の内容の数値データは会社側からの発表時に更新していますが、途中で修正される場合もありますのでこのような場合は最新の数値データを参考にして下さい。

「売り残」……三市場における直近の信用売り残です。(単位千株)

信用売り残が多い場合株価が上げやすくなります。

「買い残」……三市場における直近の信用買い残です。(単位千株)

信用買い残が多い場合株価が上げにくくなります。

「比率」……三市場における直近の信用残の取り組み比率です。

比率 = (信用買い残 ÷ 信用売り残)

数値が小さく「1」に近い場合は、取り組み比率が接近していると言い株価は上げやすくなります。

「適正」……適正度の数値です。

「平均出来高」「株価幅」「ベータ値」「市場流動性」の4項目を一定

の基準を満たした場合に1ポイントとして、合計値を適正度のポイントとしています。最大値は4ポイントです。適正度の高い銘柄は、市場流動性も高く短期売買に適した銘柄です。2ポイント以上の銘柄が望ましい。業績水準は含まれておりません。テクニカルのみです。

「変動」………株価変動率の数値です。

サヤ取りには非常に重要な指数です。大きな数値は株価の変動が大きいということです。株価変動率は、その銘柄のリスクを計る指数でもあります。数値が大きい場合はリスクが高いということになります。市場平均値は「50」です。50以上は市場平均値よりリスクが高いと判断します。

「単位」………売買できる最低単位の株数です。

1000は1000株単位での売買。1は1株単位での売買。銘柄を組み合わせる場合、売り、買い銘柄を同等の金額とするためこれらの株数で調整します。

「資本金」………資本金の金額です。(単位百万円)

「採用」………「2」は日経225銘柄に採用されている銘柄です。

「5」は日経500銘柄に採用されている銘柄です。

「3」は日経300銘柄に採用されている銘柄です。

「額面」………株式の発行額面です。

「リスク」………市場全体の株価変動率の平均値と個別銘柄の株価変動率を比較したコメントです。

<< 指数の見方(サヤ指標) >> (「裁定取引」は除く)

サヤ取りは、売り銘柄と買い銘柄を組合せることにより、その差(サヤ)が発生し、そのサヤの幅を取るわけですが、そのためそのサヤにおける指数も検証しなければなりません。

サヤ(指数)の分析指数等が表示してあります。

サヤチャート上部の白色のボックスに表示されています。

合成チャートの場合は表示されません。

【リスク度 やや低い 36】【株価水準カイリ 0.18】【業績水準カイリ 6.00】【変動率差 4】【資本金比較 △】

「リスク度」………組合せ銘柄におけるサヤ指数のリスクの度合いをはかる指数です。

このリスク度の数値が大きい場合はリスクが高いと判断します。反対に小さい場合はリスクが低いと判断します。このリスク度には一長一短あ

り、リスクが高い組合せ銘柄は危険もあるが決済は短期間でできる。リスクの低い組合せは危険は少ないが決済に時間がかかる。しかし株式投資は長期間にわたり運用するわけですからリスクの少なく組合せ銘柄を選択することをお勧めします。リスク度の割合によってコメント表示されます。リスク度の平均値は「50」です。50以上は平均値よりリスクが高いと判断します。

個別銘柄においてリスクの高い銘柄であっても、その組み合わせにおいて値動きが同じような銘柄の組み合わせの場合、サヤにおいては、高いリスクを打ち消しあってサヤのリスクは低くなる可能性があります。

【注意】「リスク度」の表示は、「指定組合せ」のみです。すでに登録されている持ち株については、リスク度の判定はありません。

「株価水準カイリ」・売り銘柄と買い銘柄の各々の株価水準を比較した数値です。

(売り銘柄の株価水準 - 買い銘柄の株価水準)で計算しています。数値が大きい方が売り銘柄と買い銘柄の株価水準の開きが大きいと判断できサヤ取りに適しています。値が大きいということは売り銘柄は高い位置にあり、買い銘柄は安い位置にあるということになります。

買い銘柄が株価水準が「1」以上であっても、その組み合わせのサヤが適正であれば特に重要視する必要はありません。

「業績水準カイリ」・売り銘柄と買い銘柄の各々の業績水準を比較した数値です。

(買い銘柄の業績水準 - 売り銘柄の業績水準)で計算しています。数値が大きい方が売り銘柄と買い銘柄の業績水準の開きが大きいと判断できサヤ取りに適しています。本システムは売り銘柄の業績水準は、「5」以下、買い銘柄の業績水準は、「5」以上の組み合わせのみを採用しています。

「変動率差」・・・売り銘柄と買い銘柄の各々の変動率を比較した数値です。

サヤ取りには非常に重要な指数です。(変動率の大きい銘柄の変動率指数 - 変動率の小さい銘柄の変動率指数)で計算しています。変動率の差が大きいほど各々の株価の値動きに違いが生じリスクが増大するためできるだけ数値が小さい組み合わせ銘柄を選択します。

【注意】サヤ取りにおいて一番重要な指数です。資金配分により「変動率差」を調整しリスクを軽減しますが、あまり差の大きい組合せは避けたほうが良いと思います。

「資本金比較」・・・売り銘柄は資本金の大きい銘柄を、買い銘柄は資本金の小さい銘柄を選択することがサヤ取りのセオリーです。売り銘柄は仕手株等にならないように大型株、買い銘柄は値動きの軽い銘柄を選択することになります。

売り、買い銘柄を資本金で比較した場合、買い銘柄の資本金に対して売り銘柄の資本金が大きいほうが望ましい。

(売り銘柄の資本金 - 買い銘柄の資本金)がプラスの場合は「+」、マイナスの場合は「-」のマークで表示してあります。

<< チェックリスト >> (「裁定取引」は除く)

メインフォームの「チェックリスト」のボタンをクリックすると表示されます。

主に「指定組合せ」「任意組合せ」において表示されます。「裁定取引」に付いては、売り、買いの価格差の表示のみです。「合成チャート」にはチェックリストの表示はありません。



組み合わせ銘柄の各指標の注意点や点検項目が表示されます。これらの判定により仕掛け基準に合致しているかの検証を行います。下記の項目についての判定を行います。

下記の項目で表示されない項目については「特に問題なし」と判断してください。

1.現在のサヤの水準

「仕掛け水準」、「決済水準」、「増玉水準」等が表示されます。

2.リスク度

サヤの現在のリスク度を表示します。「リスク度が高い」「リスク度が低い」等の判定結果が表示されます。

[注意]リスク度は「指定組合せ」のみの表示です。

3.株価倍率

売り銘柄と買い銘柄の株価の比較判定を行います。それぞれの株価の価格差が大きい場合(1.5倍以上の時)売り、買いが同等になるよう株数で調整するよう指示します。

4.株価水準カイリ

売り銘柄と買い銘柄の株価水準のカイリ(差)の判定を行います。

5.業績水準カイリ

売り銘柄と買い銘柄の業績水準のカイリ(差)の判定を行います。

6.売り銘柄信用買残

売り銘柄の信用買残についての判定を行います。売り銘柄の信用買残は多い方が良いため、少ない場合は注意の指示が表示されます。

7.売り銘柄取組比率

売り銘柄の取組比率についての判定を行います。売り銘柄の取組比率は大きい方が良いため、小さい場合は注意の指示が表示されます。

8.買い銘柄信用買残

買い銘柄の信用買残についての判定を行います。買い銘柄の信用買残は少ない方が良いため、多い場合は注意の指示が表示されます。

9.買い銘柄取組比率

買い銘柄の取組比率についての判定を行います。買い銘柄の取組比率は少ない方が良いため、大きい場合は注意の指示が表示されます。

10.変動率差

売り、買い銘柄の変動率の差について判定を行います。変動率の差が大きい場合は注意の指示が表示されます。

11.売り銘柄資本金

売り銘柄の資本金について判定を行います。売り銘柄の資本金は大きい方が良いため少ないすぎる場合は注意の指示が表示されます。

12.買い銘柄資本金

買い銘柄の資本金について判定を行います。買い銘柄の資本金は小さい方が良いため大きいすぎる場合は注意の指示が表示されます。

チェックリストを表示しますと、注意事項や基準に合致しない項目の解説が表示されますが、表示されたチェック項目をすべてクリアしている組合せ銘柄は多くは見受られず、仕掛け銘柄が無いのではないかと考えられます。しかし本システムは保険(ヘッジ)を取り入れた売買システムであり、このシステム自体が多くのリスク軽減作用が働きますので、すべての項目がクリアされていなくても仕掛けは可能であると考えます。

問題のある項目は、仕掛け後に常に注意深く観察していきます。たとえば空売りの信用取組比率は4倍以上が理想的ですが、仕掛け売り銘柄の取組比率が2倍であった場合、仕掛け後にその比率の推移を注意深く観察し、その後その比率が3倍、4倍と拡大していくのであれば問題は無くなります。

しかし反対にその比率が縮小傾向であれば早めに処分するといった措置を取れば良いと思います。

<< 資金配分 >>

株価の変動はそれぞれの銘柄によって異なってきます。大きく変動する銘柄は利幅も取りやすいのですが反面リスクも増大します。変動幅の小さい銘柄と変動幅の大きい銘柄を組み合わせた場合、おのずとそれぞれリスクの度合いも違い、サヤの変化は変動率の高い銘柄のみに大きく左右されることになります。

資金配分 (投資予定金を入力してください)			
投資予定金	投資金	<売り> 0.553	<買い> 0.447
1000000 × 94% =	940000	519820	420180

このような場合、資金配分を変動幅の大きいリスクの高い銘柄には投資金を少なく、変動幅の小さいリスクの低い銘柄には投資金を多めに配分することにより、そのリスクバランスは均等に保てることになります。リスクの多い株式投資ではこれらのリスクマネージメントが必要不可欠となります。

そこで当システムは、組み合わせられた銘柄のリスク度を計算し、組み合わせられた銘柄自体のリスク度および組み合わせられた銘柄間のリスク度により資金配分を行います。

1. まず組み合わせられた銘柄自体のリスク度を考えます。
変動幅の非常に大きい銘柄の組合せの場合、その組合せ自体のリスクは高くなりますので投資金はやや少なめに抑えることになります。反対に変動幅の小さい銘柄の組合せの場合、その組合せ自体のリスクは低くなりますのである程度の投資金を投入しても良いことになります。このように組み合わせられた銘柄自体のリスクの度合いにより投資金の増減を行います。〔投資金〕の項目に表示されます。
2. 銘柄をペアで組み合わせる場合、その銘柄間の変動率が同じ程度の銘柄を組み合わせることがリスクの少ない組合せとなるわけですが、サヤのカイリ幅などの問題もありすべての組合せを同等の変動率で組み合わせることは難しくなります。
そこでこれらの変動率の差を投資金の増減でバランスをとるようにします。変動率の高い銘柄には投資金は少なく、変動率の小さい銘柄には多く配分することにより銘柄間のリスクバランスを保てることになります。〔売り〕〔買い〕の項目に表示されます。

ペアで組み合わせて売買すること自体がリスクを大幅に低減できるのですが、更に細部にわたりリスクコントロールすることが当システムの特徴です。

「裁定取引」の場合は、複数の銘柄に均等に資金配分して売買を行います。

この場合、投資される一組分の金額を「投資予定金」に入力します。たとえば総投資額1000万円とし、

それらを10分割で仕掛ける場合、一組み分は百万円となりますので「投資予定金」の項目に1000000と入力します。

組合せ銘柄のチャートを表示すると、その組合せ銘柄による投資金額が「投資金」に表示されます。この「投資金」が実際に投資する金額となります。リスクの高い組合せの場合は投資予定金から減額されて表示されます。

また、組み合わせられた売り銘柄、買い銘柄の資金配分も指定されます。資金配分金額がそれぞれ「売り」「買い」の欄に表示されます。「売り」「買い」の欄に表示された金額が実際に投資する金額となります。リスクの高い銘柄は資金配分は小さくなります。

実際には、株価や株数の関係ですべて表示された金額のバランスで仕掛けることはできないと思われませんが、できるだけ指定された資金配分のバランスで仕掛けるよう心がけてください。

「指定組合せ」の銘柄や「任意組合せ」の組合せ銘柄も同様に売り、買い銘柄の資金配分のバランスに心がけてください。

値ガサ株の場合は、売買単位が1株単位や10株単位、100株単位で売買できる銘柄がありますので、必ず売買単位を確認して指定された金額になるようにして下さい。

「指定組合せ」および「任意組合せ」は、仕掛け後に「増玉」が発生する可能性もありますので、新規投資金は総投資金額(投資可能資金)の70%以下にとどめておいてください。

資金配分の限界

変動率の差を資金配分でバランスを取るといっても自ずと限界はあります。ではどの程度が限界かといえますと、資金配分を行ったときに売り銘柄と買い銘柄の資金配分が1対3までが限界であると考えます。

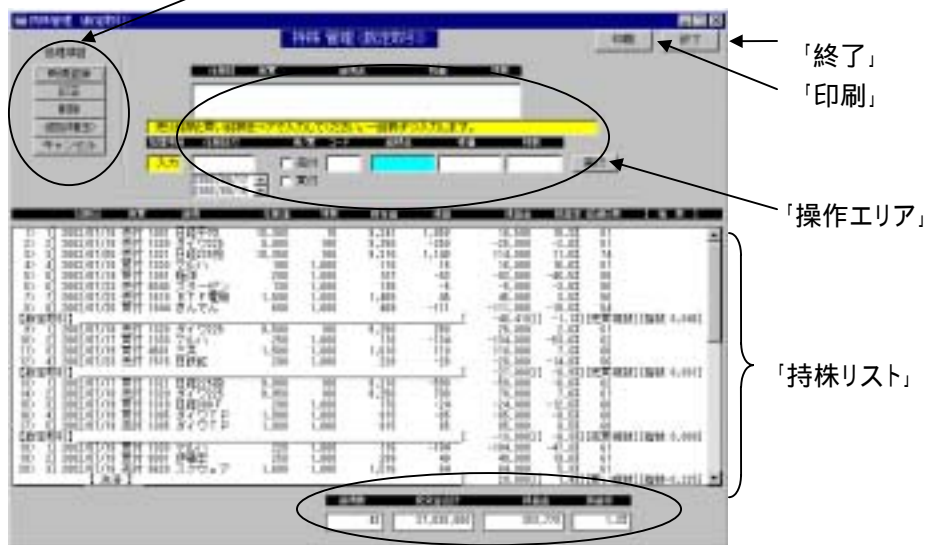
投資金が100万円であったとしますと、売りまたは買いが25万円と75万円が限界です。20万円と80万円ではいくら資金配分してもサヤ取りの基本から外れてしまいます。ただし「裁定取引」は除く。サヤ取りの基本は変動率の同じ銘柄を組合せるということが基本となりますので、売り銘柄と買い銘柄の資金配分が1対3までが限界です。

「指定組合せ」ではこれらの変動率の差が小さい組み合わせをリストしておりますので問題はないと思いますが、特に「任意組合せ」では、このような組み合わせが出てきますので十分注意をして下さい。

<< 持株管理 >>

仕掛けた組み合わせ銘柄を登録し、決済や増玉の判定や成績の管理等を行います。
 持株管理は、持ち株をグループ化することによって「裁定取引」と「指定組合せ」および「任意組合せ」それぞれの持ち株を混在で管理することができます。

「新規登録」「訂正」「削除」「追加(増玉)」「キャンセル」



「銘柄数」「投資金合計」「損益金」「損益率」

「新規登録」

新規に売り、買い銘柄を登録します。必ずペアで入力します。

【注意】売り、買い複数の銘柄によるバスケット方式の「持株管理」への登録は、最初は「新規登録」でペアで入力します。

追加する場合は「追加(増玉)」で同じグループに売り、買い一銘柄ずつ追加してください。「裁定取引」は必ず同じグループ内に追加してください。同グループ内に追加しないと複数の銘柄の平均値による「合成チャート」が表示されません。

仕舞日	売買	銘柄	仕舞値	買数	買金	損益
1> 1)	2002/07/25	売行 1001 日経平均	10,500	100	9,472	1,028
2> 2)	2002/07/25	買行 9749 富士ソフト	2,480	1,000	2,445	45
3> 3)	2002/07/25	売行 1001 日経平均	10,500	100	9,472	1,028
4> 4)	2002/07/25	買行 7914 共同印	420	1,000	428	8
【裁定取引】						
5> 1)	2002/07/25	売行 1001 日経平均	10,500	100	9,472	1,028
6> 2)	2002/07/25	買行 9749 富士ソフト	2,480	1,000	2,445	45
【裁定取引】						
7> 1)	2002/07/25	売行 1001 日経平均	10,500	100	9,472	1,028
8> 2)	2002/07/25	買行 7914 共同印	420	1,000	428	8
【裁定取引】						

「合成チャート」で表示するグループ内に入力します。

ペアでの入力では合平均

値の「合成チャート」は表

示されません。

「入力」…新規に仕掛け銘柄を登録します。

「新規登録」ボタンをクリックします。

「仕掛け日付」を入力します。「日付ボックス」の中から該当する日付をクリックして入力します。

「売付」または「買付」にチェックマークを入れます。

4桁の証券コードを入力します。銘柄名が表示されます。

仕掛け値を入力します。株価の桁の大きい銘柄はチャート等には桁を落として表示されていますが、「持株管理」での登録は桁を落とさないで、通常の株価で入力します。

株数を入力します。

入力に間違いがないか確認して、「実行」ボタンをクリックします。

続いてペア組にしたもうひとつの銘柄を入力します。上記の ~ までの手順で入力します。

入力に間違いがないか確認して、「登録」ボタンをクリックします。

登録された組合せ銘柄が「持株リスト」に表示されます。同時にメインフォームの「持ち株リスト」にも表示されます。

「訂正」…間違って入力された銘柄を訂正します。

「訂正」ボタンをクリックします。

「持株リスト」から訂正する銘柄をクリックします。

画面上部の「操作エリア」訂正銘柄が入力されます。

訂正箇所を修正して「実行」ボタンをクリックします。

「削除」…決済ずみの銘柄や入力ミスの銘柄を削除します。

「削除」ボタンをクリックします。

「持株リスト」から削除する銘柄をクリックします。

画面上部の「操作エリア」削除銘柄が入力されます。

削除銘柄に間違いがないか確認して「実行」ボタンをクリックします。

「追加(増玉)」増玉があった場合に同一組み合わせ銘柄を追加入力します。増玉の場合必ず同じグループ内に入力してください。

「追加(増玉)」ボタンをクリックします。

追加したい場所(銘柄名のところ)をクリックします。クリックした銘柄の後に追加されます。

「仕掛け日付」を入力します。「日付ボックス」の中から該当する日付をクリックして入力します。

「売付」または「買付」にチェックマークを入れます。

4桁の証券コードを入力します。銘柄名が表示されます。

仕掛け値を入力します。株価の桁の大きい銘柄はチャート等には桁を落として表

示されていますが、「持株管理」での登録は桁を落とさないで、通常の株価で入力します。

株数を入力します。

入力に間違いがないか確認して、「実行」ボタンをクリックします。

「キャンセル」銘柄登録時等において間違えて入力された場合にキャンセルします。

「持株リスト」登録された組み合わせ銘柄が表示されます。

組み合わせ銘柄の「指数」や「決済」、「増玉」の指示が表示されます。

個別銘柄の成績や組み合わせ銘柄ごとの成績や全体の成績が表示されます。

「印刷」…持ち株のリストを印刷します。

「終了」…持ち株管理を終了します。

組合せ選択 (「裁定取引」は除く)

組合せ選択の考え方

「株価水準・業績水準」

サヤ取りは割高な銘柄を売り、割り安な銘柄を買い、それらをペアにして売買を行います。具体的には、売り銘柄は株価の位置が市場平均より高く、業績は市場平均より悪い銘柄を売ります。買い銘柄は株価の位置が市場平均より安く、業績は市場平均より良い銘柄を買います。これが「サヤ取り」の基本です。

本システムは、株価の水準および業績の水準についてはすでに指数化して、理解しやすいような数値表示となっていますので、これらの数値により割り高、割り安の判定が容易にできます。

株価水準は、市場平均が「1」であるため、売り銘柄の株価水準は「1」以上、買い銘柄の株価水準は「1」以下。

業績水準は、市場平均が「5」であるため、売り銘柄の業績水準は「5」以下、買い銘柄の業績水準は「5」以上。

本システムの「組合せリスト」に表示されている組合せ銘柄は、すべて売り銘柄の業績水準は「5」以下、買い銘柄の業績水準は「5」以上に分類して表示してあります。

株価水準に付いては特に分類はありませんが、たとえば買い銘柄の株価水準が市場平均値の「1」以上であっても売り銘柄の組み合わせにおいて、売り銘柄の株価水準が大幅に高い位置にあれば、買い銘柄の株価水準はあまり問題にしなくても良いと思います。

「信用残・取組比率」

売り銘柄は信用取引での空売りとなります。売り銘柄は株価の下げを狙って仕掛けますが、この場合、売り銘柄の買残は多い方が将来の売り圧迫を招き、株価は下降の展開が予想されます。売り銘柄の信用取組比率(買残÷売残)は、できるだけ大きい比率が好ましいということになります。

一般的に売り銘柄の取組比率は、4倍以上が望ましいのですが最近は売残の多い銘柄が多く見うけられます。そのため現在では2倍以上でも良いのではないかと考えます。売残、買残の絶対量が多く取組比率が2倍以下の売り銘柄は要注意です。

一方買い銘柄は現物でも信用でも売買は可能です。買い銘柄が信用銘柄である場合は、できるだけ信用買残の少ない銘柄が望ましいということになります。買残が多い場合は将来の売り圧迫を招き株価が上げにくくなります。

買い銘柄の取組比率は、できるだけ接近している(数値が小さい方が良い)銘柄が好ましいということになります。取組比率が接近しているということは売残も多いということになり、将来の買いに繋がるた

めです。

「資本金について」

売り、買い銘柄の資本金に付いては、一般的には資本金の大きい銘柄は株価の値動きが重く、仕手株などにはなりにくく空売りに適しています。資本金の小さい銘柄は、値動きは軽く買い銘柄に適しています。よって、売り銘柄はできるだけ資本金の大きい銘柄を、買い銘柄はできるだけ資本金の小さい銘柄を選択することにより「サヤ取り」の効率が高まります。

まとめ

	〔売り銘柄〕	〔買い銘柄〕
株価水準	高い位置(株価水準「1」以上)	低い位置(株価水準「1」以下)
業績水準	下降傾向(業績水準「5」以下)	上昇傾向(業績水準「5」以上)
売残	少ない方がよい	多い方がよい
買残	多い方がよい	少ない方がよい
取組比率	大きい方がよい	小さい方がよい
資本金	大きい方がよい	小さい方がよい

売買システム

「裁定取引」システム

市場指数(先物、ETF等)は現在十数種類あります。市場平均指数であるこれらの銘柄を常に「売り」として利用します。先物やETF等の指数は「売り」がセオリーです。「売り銘柄リスト」に表示されます。

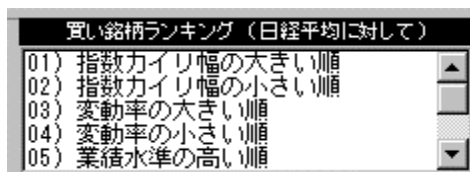
「買い」は個別銘柄を利用します。株価が市場平均水準以下にある銘柄で業績ができるだけ良い銘柄が選択されてます。「買い銘柄リスト」に表示されます。

「買い銘柄リスト」に表示された銘柄は「カイリ幅」や「変動率」によるランキング表示が可能です。

「裁定取引」は、市場指数(先物、ETF等)の売りに対して買い銘柄は複数の銘柄(バスケット方式)で構成されるのが一般的です。

買い銘柄ランキング(日経平均に対して)

買い銘柄ランキングリストに表示されている項目をクリックすると、その項目のランキング順にリストに表示されます。これらはすべて日経平均に対してのランキングです。



01)指数カイリ幅の大きい順

本日のサヤ指数が仕掛け基準値よりカイリ幅の大きい順にランキング表示されます。
一般的にはこの上位より買い銘柄を選択します。

02)指数カイリ幅の小さい順

本日のサヤ指数が仕掛け基準値よりカイリ幅の小さい順にランキング表示されます。

03)変動率の大きい順

買い銘柄の株価の変動率の大きい順にランキング表示されます。変動率が大きいとサヤ幅も拡大しますがリスクも増大します。

04)変動率の小さい順

買い銘柄の株価の変動率の小さい順にランキング表示されます。変動率が小さいとサヤ幅があまり拡大しませんがリスクは少なくなります。

05)業績水準の高い順

買い銘柄の業績水準の高い銘柄順にランキングされます。ファンダメンタル的にはリスクは少ないと思います。

06)業績水準の低い順

買い銘柄の業績水準の低い銘柄順にランキングされます。ファンダメンタル的にはリスクが高くなります。

07)株価水準の高い順

買い銘柄の株価水準の高い銘柄順にランキングされます。

08)株価水準の低い順

買い銘柄の株価水準の低い銘柄順にランキングされます。

09)信用銘柄のみ選択

信用銘柄である買い銘柄買い銘柄を選択します。

組み合わせ銘柄の選び方

本システムの買い銘柄は、日経平均に対してサヤのカイリ幅が「0.10」ポイント以上の銘柄が「買い銘柄」としてリストされています。業績は市場平均以上の銘柄が選択されています。

業績水準……「買い銘柄」は業績水準が「5」ポイント以上の銘柄がリストされていますが、できるだけポイントの高い銘柄を選択します。

変動率差……できるだけ差の小さい(0に近い数値)組み合わせ銘柄が理想的ですが変動率差は資金配分により投資金を増減しリスクを軽減しますので、あまり差が大きすぎなければあまり問題にしくても良いと思います。

ETF(指数連動型投信)は現在、10口単位で10万円前後で売買可能ですので、これらを利用しポートフォリオを作成します。(購入に必要な金額に付いては取扱各証券会社にお尋ね下さい。)

ETFを売り銘柄として、買い銘柄を選択します。

買い銘柄を選択は「買い銘柄ランキング」の各項目でランキングしながら選択しますが、当初は「01)指数カイリ幅の大きい順」の上位より選択されれば良いと思います。

ETFを売り銘柄として、資金配分を行いながら複数の銘柄を仕掛けます。資金配分を適正に行えば、これらはリスクコントロールされた最適なポートフォリオになります。

注意

ETFは日経平均系、TOPIX系、業種別系などがありますが、日経平均系でも同じ値動きでありながら

(ダイワ225、日経225、上場225など)買い銘柄と組合せるとサヤ指数が異なる場合が組み合わせがあります。

本システムは、売り銘柄と買い銘柄との単純なサヤ(売り銘柄の株価 - 買い銘柄株価)の方式は取っておらず、各銘柄の出来高も加味した独自の分析手法を取っていますので、同銘柄であってもサヤ指数が異なるという現象が現れてきます。

基準値

仕掛け基準値・・・買い銘柄ランキング」に表示されている銘柄は、日経平均に対してサヤのカイリ幅が「0.10」ポイント以上の銘柄が「買い銘柄」としてリストされていますので仕掛けはこれらの銘柄を仕掛けます。

(0.10)仕掛値 以上 サヤチャートに表示され、仕掛けはサヤ指数が「0.10」ポイント以上の銘柄に限られます。それ以下での仕掛けはできません。サヤ指数が「0.10」ポイントは仕掛けの最低ラインですので仕掛け条件をクリアした組み合わせで、できるだけサヤ指数の大きい組合せ銘柄を選択するようにします。仕掛値「0.10」は固定値で、組み合わせ銘柄による仕掛け基準値の変化はありません。

(0.35)仕掛値 サヤチャートに表示され、通常はこの水準(サヤ指数が「0.35」ポイント前後)で仕掛けを行います。相場水準によっては、この水準に満たない組み合わせ銘柄が多くリストされる場合があります。このような場合他のサヤの仕掛け条件に合致していれば、サヤ指数「0.35」ポイント以下でも仕掛けは十分可能です。ただし仕掛値「0.10」以上であること。仕掛値「0.35」は固定値で、組み合わせ銘柄による仕掛け基準値の変化はありません。

(0.61)増玉値 サヤチャートに表示され、仕掛け基準値以上で仕掛けたにもかかわらず更にサヤが拡大し、増玉基準値をオーバーした場合に再度、同じ組み合わせで同株数の仕掛けを行います。増玉値「0.61」は固定値で、組み合わせ銘柄による増玉値の変化はありません。

【注意】仕掛け後「増玉値」に達した場合、投資資金量に応じてこの水準で「処分」されても良いと思います。

決済基準値・・・サヤチャートに表示され、仕掛けた組み合わせ銘柄がこの決済基準値に達した場合に決済します。決済基準値「0.00」は固定値で、組み合わせ銘柄による決済基準値の変化はありません。

ただし実際はポートフォリオで構成された銘柄の中から決済や追加仕掛けなどを行いますので、この決済基準値に達することはないと思います。

また、もうひとつの手法として仕掛けは順次銘柄を追加していきポートフォリオが完成した時点で売買をストップし、そのまま持続して決済基準値に達した時点ですべてを決済するという手法があります。このような場合

に決済基準値を利用します。

抵抗線……サヤ指数がこの抵抗線の下から上昇してきた場合は、この抵抗線水準で止まる可能性が高い。サヤ指数が上から下降してきた場合はこの抵抗線水準で止まる可能性が高い。参考程度に考えてください。

売買方法

「裁定取引」の売買方法は「銘柄を入れ替えながら売買する方法」と、「一括決済の方法」の二種類の方法があります。

ポートフォリオとして構成された全体のサヤ指数は「合成チャート表示」により表示することができます。

1. 銘柄を入れ替えながら売買する方法。

組合せ銘柄を順次仕掛け、売り銘柄(ETF)と個別の銘柄のペアのサヤチャートを表示して、決済基準値「0.00」以下になった銘柄は決済可能です。決済銘柄があった場合は、新しく買い銘柄を選択して追加します。このように銘柄を入れ替えながらポートフォリオを運用して行きます。決済は基本的には、ペアに組んだ売り銘柄(ETF)と個別の買い銘柄を同時に決済します。

2. 一括決済の方法。

仕掛けは順次銘柄を追加していきポートフォリオが完成した時点で仕掛けをストップします。銘柄の入れ替えを行わずそのまま持続して複合チャートで決済基準値「0.00」に達した時点ですべてを決済するという手法です。複合チャートで決済基準値に達した時点ですべてを決済し、ポートフォリオをすべて解消し、改めて新しいポートフォリオを構築して行きます。

業績の悪化した銘柄やマイナス幅が大きくなった銘柄は増玉等を行わず、できるだけ処分する方向で対処してください。

「指定組合せ」システム

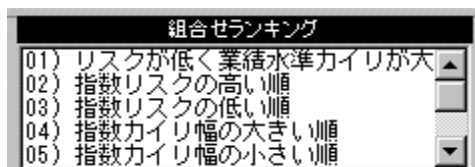
組合せ総数が数十万組の中から、サヤ取りに適した条件のもとに選択された組合せ銘柄を提供しています。すべてペア組にしてリストされます。

売り銘柄の業績は市場平均以下、買い銘柄の業績は市場平均以上で、その組合せにおいてすべて仕掛け水準に達している組合せを提供しています。またこれらの組合せ銘柄はできるだけリスクの少ない組合せが選択されています。

組合せランキング

組み合わせランキングリストに表示されている項目をクリックすると、その項目のランキング順にリストに表示されます。

本システム立ち上げ時に表示される組み合わせリストは、「01)リスクが低く業績水準カイリが大きい」組み合わせリストの内容が表示されます。



01)リスクが低く業績水準カイリが大きい

サヤ指数のリスクが低い組合せ銘柄と、売り銘柄の業績水準と買い銘柄の業績水準の差ができるだけ大きくカイリしている組合せ銘柄の両方の条件を兼ね備えた組合せ銘柄を上位よりランキング表示します。起動時に表示される組み合わせ銘柄は、この条件で表示されます。一般的な組合せ銘柄の選択は、このリストの上位から選択していきます。

02)指数リスクの高い順

サヤ指数のリスクの高い順にランキング表示されます。リスクの高い組み合わせのため売買には十分注意します。

03)指数リスクの低い順

サヤ指数のリスクの低い順にランキング表示されます。初心者の方は、このようなリスクの低い組み合わせの銘柄を選択されると良いと思います。

04)指数カイリ幅の大きい順

本日のサヤ指数が仕掛け基準値よりカイリ幅の大きい順にランキング表示されます。タイミングよく仕掛けられれば大幅な利食いが可能となります。

05)指数カイリ幅の小さい順

本日のサヤ指数が仕掛け基準値よりカイリ幅の小さい順にランキング表示されます。

06)業績水準カイリ幅の大きい順

売り銘柄の業績水準と買い銘柄の業績水準のカイリ幅の大きい組合せ銘柄順に上位よりランキング表示します。業績水準のカイリ幅大きいためファンダメンタル的にはリスクは少ないと思います。

07)業績水準カイリ幅の小さい順

売り銘柄の業績水準と買い銘柄の業績水準のカイリ幅の小さい組合せ銘柄順に上位よりランキング表示します。業績水準のカイリ幅が小さいため仕掛けには不向きであると思います。

08) 株価水準カイリ幅の大きい順

売り銘柄の株価水準と買い銘柄の株価水準のカイリ幅の大きい組合せ銘柄順に上位よりランキング表示します。

09) 株価水準カイリ幅の小さい順

売り銘柄の株価水準と買い銘柄の株価水準のカイリ幅の小さい組合せ銘柄順に上位よりランキング表示します。

銘柄の組み合わせ方法

本システムの「売り銘柄」「買い銘柄」リストにに表示されている銘柄の選択基準は下記の条件により選択されています。

売り銘柄…… 業績は業績水準「5」以下であること。
信用銘柄であること。

買い銘柄…… 業績は業績水準「5」以上であること。

本システムの業績判定は、個々の銘柄の業績を集計し、それらが市場全体のどの水準にあるかを判定します。市場全銘柄を0～10の範囲にまとめ、その平均値を5としています。

業績水準値が「5」以上の銘柄は市場平均より良いと判定します。

業績水準値が「5」以下の銘柄は市場平均より悪いと判定します。

上記の条件をもとにすべての銘柄を組み合わせます。(組み合わせ総数約50万組)そしてその組み合わせ銘柄同士の変動率(ボラティリティ)をチェックし、その変動率の近い組み合わせを選択します。組み合わせ銘柄の変動率が違いすぎると、サヤの変化が変動率の大きな銘柄のみに左右されるといふ現象が生じ、ヘッジの役割を果たさなくなりリスクが増大する危険があるためです。

また売買頻度の少ない銘柄や株価の上下変動幅が小さい銘柄、その他サヤ取りに適さない銘柄も除外してあります。

大証銘柄や店頭銘柄については、サヤ取りに適さない銘柄が多いため採用している銘柄は東証銘柄のみとしています。

これらの条件をクリアした組み合わせ銘柄を更に現在(本日)のサヤのカイリ率が当システムの仕掛け基準である仕掛け指数「0.45」以上の組み合わせ銘柄をリストして提供しています。

基準値

組合せ銘柄選択基準

売り銘柄は株価水準が高く業績は下降傾向の銘柄、買い銘柄は株価水準が低く業績は上昇傾向の銘柄等、その他の項目についてもチェックリストを利用することにより組合せ銘柄の選択ができます。

仕掛け基準値・・・サヤチャートに表示され、仕掛け水準の位置を表しています。仕掛けは、仕掛け基準値「0.45」以上で仕掛けます。仕掛け基準値「0.45」は固定値で、組み合わせ銘柄による仕掛け基準値の変化はありません。

決済基準値・・・サヤチャートに表示され、仕掛けた組み合わせ銘柄がこの決済基準値に達した場合に、これらの組み合わせ銘柄を決済します。決済基準値「0.225」は固定値で、組み合わせ銘柄による決済基準値の変化はありません。

増玉基準値・・・サヤチャートに表示され、仕掛け基準値以上で仕掛けたにもかかわらず更にサヤが拡大し、増玉基準値をオーバーした場合に再度同じ組み合わせで同株数の仕掛けを行います。増玉基準値は、増玉 と増玉 の二箇所あり、それぞれの増玉基準値は「0.86」、「1.50」ですべて固定値です。

抵抗線・・・サヤ指数がこの抵抗線の下から上昇してきた場合は、この抵抗線水準で止まる可能性が高い。サヤ指数が上から下降してきた場合はこの抵抗線水準で止まる可能性が高い。参考程度に考えてください。

以上のように、仕掛けから決済、増玉まですべて数値により判定が可能で、それらの数値は固定値ですので容易に理解することができます。

【注意】仕掛け後「増玉基準値」に達した場合、投資資金に応じてこの水準で「処分」されても良いと思います。

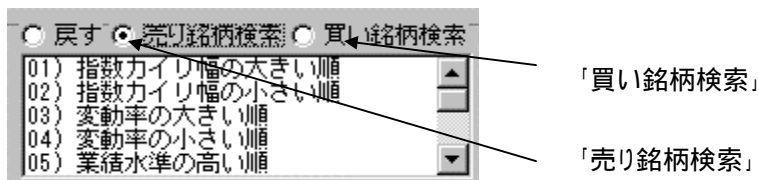
「任意組合せ」システム

「売り銘柄」および「買い銘柄」リストに表示されている銘柄は、売り銘柄の業績は市場平均以下、買い銘柄の業績は市場平均以上の銘柄で分類されリストしてあります。自由に売り銘柄、買い銘柄をクリックしてサヤチャートを表示することができます。

「売り銘柄検索」または「買い銘柄検索」にチェックマークを入れ、表示された検索項目をクリックすることによりその項目のランキングが表示されます。

また持ち株であった組合せ銘柄の一方が、業績等に変更があって処分された場合、他方の銘柄に対

して再度組み合わせ銘柄を検索する時に利用されると便利です。



01) 指数カイリ幅の大きい順

本日のサヤ指数が仕掛け基準値よりカイリ幅の大きい順にランキング表示されます。
一般的にはこの上位より買い銘柄を選択します。

02) 指数カイリ幅の小さい順

本日のサヤ指数が仕掛け基準値よりカイリ幅の小さい順にランキング表示されます。

03) 変動率の大きい順

買い銘柄の株価の変動率の大きい順にランキング表示されます。変動率が大きいと
サヤ幅も拡大しますがリスクも増大します。

04) 変動率の小さい順

買い銘柄の株価の変動率の小さい順にランキング表示されます。変動率が小さいと
サヤ幅があまり拡大しませんがリスクは少なくなります。

05) 業績水準の高い順

買い銘柄の業績水準の高い銘柄順にランキングされます。ファンダメンタル的には
リスクは少ないと思います。

06) 業績水準の低い順

買い銘柄の業績水準の低い銘柄順にランキングされます。ファンダメンタル的には
リスクが高くなります。

07) 株価水準の高い順

買い銘柄の株価水準の高い銘柄順にランキングされます。

08) 株価水準の低い順

買い銘柄の株価水準の低い銘柄順にランキングされます。

09) 信用買残の多い順 (売り銘柄検索のみ)

売り銘柄を選択する場合、信用買残の多い銘柄は売り圧迫により株価が上げにくく
なるため売り銘柄はできるだけ信用買残の多い銘柄を選択します。

10)信用取組の大きい順 (売り銘柄検索のみ)

売り銘柄を選択する場合、信用取組の大きい銘柄は信用買残の多い銘柄のため株価が上げにくくなります。

11)資本金の大きい順

資本金の大きい銘柄は、値動きが緩慢で仕手株等にはなりにくく売り銘柄に適しています。

12)資本金の小さい順

資本金の小さい銘柄は、値動きが軽く買い銘柄に適しています。

13)信用銘柄のみ選択 (買い銘柄検索のみ)

信用銘柄である買い銘柄買い銘柄を選択します。

組み合わせ銘柄の選び方

本システムので組み合わせ銘柄を選択される場合、選択基準は下記の条件を基本として選択してください。

売り銘柄…… 業績は業績水準「5」以下であること。
信用銘柄であること。

買い銘柄…… 業績は業績水準「5」以上であること。

本システムの業績判定は、個々の銘柄の業績を集計し、それらが市場全体のどの水準にあるかを判定します。市場全銘柄を0～10の範囲にまとめ、その平均値を5としています。

業績水準値が「5」以上の銘柄は市場平均より良いと判定します。

業績水準値が「5」以下の銘柄は市場平均より悪いと判定します。

業績水準カイリ…できるだけカイリ幅の大きい組み合わせ銘柄を選択します。

変動率差……できるだけ差の小さい(0に近い数値)組み合わせ銘柄を選択します。

資本金比較……買い銘柄の資本金より大きい売り銘柄を選択します。

組み合わせ銘柄を検索する場合、売り銘柄、買い銘柄共に「01)指数カイリ幅の大きい順」で検索された後、上位より順に各項目をチェックリストで検証しながらサヤチャートを見ていきます。

売買頻度の少ない銘柄や株価の上下変動幅が小さい銘柄、その他サヤ取りに適さない銘柄も除外してあります。

大証銘柄や店頭銘柄については、サヤ取りに適さない銘柄が多いため採用している銘柄は東証銘柄のみとしています。

基準値

組合せ銘柄選択基準

売り銘柄は株価水準が高く業績は下降傾向の銘柄、買い銘柄は株価水準が低く業績は上昇傾向の銘柄等、その他の項目についてもチェックリストを利用することにより組合せ銘柄の選択ができます。

仕掛け基準値・・・サヤチャートに表示され、仕掛け水準の位置を表しています。仕掛けは、仕掛け基準値「0.45」以上で仕掛けます。仕掛け基準値「0.45」は固定値で、組み合わせ銘柄による仕掛け基準値の変化はありません。

決済基準値・・・サヤチャートに表示され、仕掛けた組み合わせ銘柄がこの決済基準値に達した場合に、これらの組み合わせ銘柄を決済します。決済基準値「0.225」は固定値で、組み合わせ銘柄による決済基準値の変化はありません。

増玉基準値・・・サヤチャートに表示され、仕掛け基準値以上で仕掛けたにもかかわらず更にサヤが拡大し、増玉基準値をオーバーした場合に再度同数の仕掛けを行います。増玉基準値は、増玉 と増玉 の二箇所あり、それぞれの増玉基準値は「0.86」、「1.50」ですべて固定値です。

抵抗線・・・サヤ指数がこの抵抗線の下から上昇してきた場合は、この抵抗線水準で止まる可能性が高い。サヤ指数が上から下降してきた場合は、この抵抗線水準で止まる可能性が高い。参考程度に考えてください。

以上のように、仕掛けから決済、増玉まですべて数値により判定が可能で、それらの数値は固定値ですので容易に理解することができます。

【注意】仕掛け後「増玉基準値」に達した場合、投資資金に応じてこの水準で「処分」されても良いと思います。

「任意組合せ」は、組み合わせが自由にできる反面、変動率差が非常に大きい組み合わせや仕掛け基準に達していない組み合わせが多く選び出されるため、実際の仕掛けには十分注意してください。

売買手順

裁定取引の売買手順

現在取引してる証券会社が「ETF」の売買が可能か確認してください。最低売買単位も確認します。

1. 資金の分散

投資可能な資金を設定します。裁定取引といっても業績の修正などにより、リスクがまったくないわけではありませんので投資資金をある程度分散して売買を行います。

ひとつの組合せで売買できる最低の資金は50～100万円前後です。たとえば投資可能資金が1000万円であるとする10～20分割が可能となります。10～20組のポートフォリオの構成ができます。これらの資金分散は必ず資金量に応じて投資家自身がしっかりと計画を立ててから実践に入ってください。

「ETF」と「買い銘柄」のペアのみでの売買は可能ですが、本格的な資産運用としてはやはり5組以上のポートフォリオの構成をお勧めします。

2. 銘柄選択

すでに買い銘柄として選択されているリスト「01)指数カイリ幅の大きい順」の上位より仕掛けが可能です。システム起動時に表示されるリストは、「01)指数カイリ幅の大きい順」に表示されます。初めて実践される場合は「01)指数カイリ幅の大きい順」が「04)変動率の小さい順」のリストの上位からの選択して行けば良いと思います。

また、「買い銘柄」を信用取引で行う場合は「09)信用銘柄のみ選択」で検索してください。

チェックリスト

裁定取引のシステムは売り銘柄がETF銘柄のため資本金や信用残の比較ができないため裁定取引のチェックリストの表示項目は「株価の差」「株価水準カイリの逆転」「買残株数が多すぎる」の3項目のみとなっています。

3. 資金配分

投資可能な金額から分割された一組分の資金を「投資予定金」の項目に入力します。選択された組合せ銘柄のチャートを表示すると適正に配分された投資金が表示されますので、それらに従い資金を配分します。

たとえば投資金が1000万円を10分割で売買を行う計画を立てた場合、「投資予定金」の項目に1000000(100万円)と入力します。

組合せ銘柄のチャートを表示すると、その組合せ銘柄による投資金額が「投資金」に表示されます。この「投資金」が実際に投資する金額となります。

組合せ銘柄によっては「投資金」が「投資予定金」より減額されて表示される場合があります。これは

組み合わせにおいて、その組合せ自体の変動率が高くリスクの高い組合せとなります。このような場合に投資予定金から減額されて表示されます。

チャート表示された際に自動的に〔売り〕〔買い〕に配分された金額が表示されますので、それらに従い投資資金を配分します。実際には株価や株数などにより指示された資金配分に分配できない場合がありますが、最低売買単位などを確認してできるだけそれらの近い配分になるよう心がけてください。値ガサ株の場合は、売買単位が1株単位や10株単位、100株単位で売買できる銘柄があります。あまりかけ離れてしまう場合は、それらの組合せは採用しないようにします。

以上のように、本システムは組合せ銘柄のリスク度により投資金の減額、また売り銘柄および買い銘柄のリスク度に応じてそれぞれ資金配分を行うという、リスク管理には細心の注意を払って売買するというリスクマネージメントを行っています。

4. 仕掛け

「買い銘柄ランキング」に表示されている銘柄は、日経平均に対してサヤのカイリ幅が「0.10」ポイント以上の銘柄が「買い銘柄」としてリストされています。この水準が仕掛けの最低水準となります。通常の仕掛け水準はサヤのカイリ幅が「0.35」前後、またはそれ以上とします。

相場全体が上下の変動が少なくもちあい状態で展開しているような時には、「買い銘柄」のすべてがカイリ幅「0.35」に至らない状況になる場合があります。このような状況下では「01)指数カイリ幅の大きい順」で上位より選択されれば良いと思います。ただし仕掛けの条件やサヤのカイリ幅が「0.1」以上の条件をクリアしていること。

実際の手順は「01)指数カイリ幅の大きい順」か「04)変動率の小さい順」のリストの上位から順に、仕掛け条件を検証しながら条件に合った銘柄を仕掛けて行けば良いと思います。

また、仕掛ける銘柄数は一度に全部仕掛けしないで、時間的分散を考え多少時間をおいて順次仕掛けた方が良いと思います。

注文が制約したら「持株管理」に登録します。最初はペアで入力し、その後は同じグループ内に一銘柄ごと「追加」で入力します。

【注意】「裁定取引」で銘柄を入力する場合、初回のみ「新規登録」でペアで入力します。追加する場合は「追加(増玉)」で同じグループに売り、買い銘柄を一銘柄ずつ追加してください。「裁定取引」は必ず同じグループ内に追加してください。同グループ内に追加しないと複数の銘柄の平均値による「合成チャート」が表示されません。

〔仕掛け例〕

=====売り銘柄=====	=====買い銘柄=====
2002/07/18 売付1320 ダイワ225 10420	2002/07/18買付 4716日オラクル 4650
2002/07/18 売付1320 ダイワ225 10420	2002/07/18買付 8170アデランス 2780
2002/07/22 売付1320 ダイワ225 10520	2002/07/22買付 9614ベル24 31550
2002/07/22 売付1320 ダイワ225 10520	2002/07/22買付 6480トムソン 567
2002/07/25 売付1320 ダイワ225 9920	2002/07/25買付 8101GS!クレ 195
2002/07/25 売付1320 ダイワ225 9920	2002/07/25買付 7463アドヴァン 1014

銘柄選択検証の手順

サヤ指数が「0.35」以上またはその近辺であること。ただし、相場状況によりサヤ指数が「0.35」に至らない状況になる場合があります。このような場合はカイリ幅が「0.1」以上で、できるだけカイリ幅の大きい銘柄を選択すること。

「資金配分」で、できるだけ「投資予定金」と「投資金」の同じ程度の組み合わせを選ぶ。これは、「投資金」が「投資予定金」より減少されて表示されることは、その組み合わせ銘柄は変動率が大きくリスクが高いといえます。

「資金配分」で、配分された〔売り〕〔買い〕銘柄の金額の差が小さいこと。これは、組み合わせられた銘柄の変動率が同じような組み合わせであると言えます。この差は最大でも3倍までとしています。できるだけ同じような金額の組み合わせがリスクが小さくなります。

買い銘柄の資本金は小さいほうが値動きが軽く裁定取引には適しているのですが、資金量の大きいポートフォリオの場合は中型株も組み込んで良いと思います。超大型株は避けたほうが良いと思います。

業績水準は「5」ポイント以上の銘柄がリストされていますが、できるだけ大きい数値の銘柄を選択します。

信用銘柄の買い残はできるだけ少ない銘柄を選ぶ。

5. 維持管理

仕掛け後は日々ポートフォリオの管理を行います。

仕掛け後に持ち株の管理を行いますが、その管理の方法には決済手法により「銘柄を入れ替えながら売買する」方法と「一括決済」の2種類の管理方法があります。

A) 銘柄を入れ替えながら売買する場合。

売り銘柄(ETF)と個別の買い銘柄のペアでチャート表示して見ていきます。決済基準値「0.00」はサヤチャートに表示され、仕掛けたペアの組み合わせ銘柄がこの決済基準値に達した場合に決済します。

決済銘柄があった場合は、新しく組合せ銘柄を選択して追加します。このように銘柄を入れ替えながらポートフォリオを運用して行きます。決済基準値「0.00」は固定値で、組み合わせ銘柄による決済基準値の変化はありません。決済は基本的には、ペアに組んだ売り銘柄(ETF)と個別の買い銘柄を同時に決済します。

決済する場合、ペアに組んだ売り銘柄(ETF)が株価が仕掛け時と同じ水準であれば、買い銘柄のみを決済して、新たに買い銘柄を追加することもできますが、基本的には売り、買い同時決済です。

日々ポートフォリオを維持している間は常に銘柄の監視を行います。

買い銘柄について、業績の変化はないか、売り残が増加していないか、サヤが大きくカイリ(反対方向に)していないか、必ずチェックします。

特に業績水準に修正があり、「5」ポイント以下となった銘柄に対しては処分して、他の銘柄と入れ替えを行います。その他項目についても検証しメンテナンスを行います。

B) 一括決済の場合。

仕掛けは順次銘柄を追加して行きポートフォリオが完成した時点で仕掛けをストップします。

銘柄の入れ替えを行わずそのまま持続します。(ただし業績の下方修正等があった場合は除く)

仕掛けは時間的分散を考え、一度に行わず時間をおいての仕掛けがベストです。

複合チャートで決済基準値「0.00」に達した時点ですべてを決済することが基本です。

複合チャートまたは持ち株管理で決済基準値に達した時点ですべてを決済し、ポートフォリオをすべて解消し、改めて新しいポートフォリオを構築して行きます。

決済は決済基準値「0.00」に達しなくてもある程度利益が出れば決済は可能ですが、あまり小幅な利幅での決済はできるだけ避けたいところです。

日々ポートフォリオを維持している間は常に銘柄の監視を行います。

買い銘柄について、業績の変化はないか、売り残が増加していないか、サヤが大きくカイリ(反対方向に)していないか、必ずチェックします。

特に業績水準に修正があり、「5」ポイント以下となった銘柄に対しては処分して、他の銘柄と入れ替えを行います。その他項目についても検証しメンテナンスを行います。

A)またはB)のポートフォリオを維持期間中に、組み合わせ銘柄のサヤ指数が反対方向に大幅カ

イリした場合、たとえば「(0.61)増玉値」をオーバーしたような場合などは、投資家の資金量に応じて「処分」するか「増し玉」するかの判断を行います。もう少し様子を見るといった考えはやめてください。

処分する場合、組み合わせられた銘柄を同時に処分します。そして他の組み合わせ銘柄を追加します。増し玉をする場合は、必ず仕掛けの条件に合致しているか確認して、合格の場合のみ増し玉を行います。もし合格していなければ処分して、他の組み合わせ銘柄を追加します。

増し玉の仕掛けは、同じ組み合わせ銘柄を同株数で仕掛けます。

「指定組合せ」「任意組合せ」の売買手順

本システム起動時に表示されている「組合せリスト」は、「01)リスクが低く業績水準カイリが大きい」組み合わせリストの内容が表示されます。(指定合せの場合)このリストの上位から各項目を「チェックリスト」を参照しながら銘柄選択を行います。

仕掛け条件の整った組合せ銘柄は、売り、買い銘柄の「資金配分」で株数を調整し、またすでに複数の組合せ銘柄を持ち株としている場合は、同じ銘柄の重複を避けるようにして仕掛けます。

仕掛け後は「持ち株管理」に登録します。

1. 仕掛け時のサヤ指数は、必ず仕掛け基準値である指数「0.45」以上で、売り、買い同時に仕掛けます。サヤ指数「0.45」から「0.86」の間が仕掛けゾーンとなります。但し、サヤ指数「0.86」以上の「増玉」水準にある組み合わせ銘柄でも、各項目の指数の条件が整っていれば仕掛けも可能です。仕掛けは必ず翌日寄り付き成行きで行います。もし指値をして仕掛けができなかった場合「片張り」となってしまう可能性がありますので必ず成行きで行います。但し、仕掛け株数が多い場合はこの限りではありません。
2. 決済は、決済基準値であるサヤ指数「0.225」以下になった場合に売り、買い銘柄を同時に決済します。決済は翌日寄り付き成行きで行います。業績や信用残高の変化により、決済基準値を待たず決済する場合があります。
3. 仕掛け後、サヤ指数が更に拡大して増玉水準に達しましたら、売り、買い同銘柄を同株数で再度仕掛け(増玉)ます。新規仕掛け後にサヤが拡大して「増玉」が発生する可能性がありますので、新規の仕掛けの資金は総投資額の70%以内にとどめなければなりません。
4. 仕掛け基準値「0.45」以上で1回仕掛け、つづいて「増玉」を行った場合の決済は、「仕掛値」に達したら売り、買い銘柄すべて(増玉を含め)決済します。決済基準値まで持続しませんので注意します。
5. 新規仕掛け、増玉、増玉と3回仕掛けを行った場合の決済も「仕掛値」に達したら売り、買い銘柄すべて(増玉を含め)決済します。決済基準値まで持続しませんので注

意します。

6. サヤ指数は通常、増玉水準まで達せず反転するのが一般的ですが、サヤ指数が増玉水準や増玉水準に達した組合せ銘柄も最終的には、決済基準値である指数「0.225」は達成できると思います。しかし増玉水準まで到達した組合せ銘柄は売り、または買い銘柄に材料などが出て株価が異常値になったためと考えられます。これらの組合せ銘柄を長く持ちつづけることは危険と考え、決済基準値に達しなくても決済することがリスク軽減につながるものと考えます。
7. 新規仕掛けが増玉以上の水準であった場合、決済はやはり「仕掛値」に達したら売り、買い銘柄すべて決済します。決済基準値まで持続しませんので注意します。
8. 決済は決済基準値であるサヤ指数「0.225」以下に達しなくても利益が出れば投資家自身の判断で決済は可能です。しかしあまり小幅な利益で決済することはできるだけ避けたいところです。

禁止事項

「片はずし」の禁止

売り、買いのペアで組合せた銘柄を、仕掛け後に利益のある方の銘柄のみを決済(片はずし)してしまうということは絶対に止めてください。(但し銘柄の入替は除く)初心者が必ず陥るミスです。「片はずし」をすることは、すでにサヤ取りを放棄したことになり、残された銘柄は最終的には「塩漬け」になります。

「重複仕掛け」の禁止(「裁定取引」は除く)

リスクを軽減する意味において「重複仕掛け」は避けてください。たとえば、売り銘柄が「A」であり、買い銘柄が「B」であって現在持続中であった場合、次の仕掛けでは売り銘柄に「A」の銘柄は採用しません。同様に買い銘柄に「B」の銘柄は採用しません。同銘柄の重複仕掛けは禁止します。

「組合せリスト」を見ると最初は組合せ銘柄が非常に多く、どの組合せ銘柄を選択してよいか迷われると思いますが、ペアで数組仕掛けますと持ち株として登録されている銘柄に「*」のマークが付き重複仕掛けをしないように指示しますので、実際に仕掛けのできる銘柄はそう多くはありません。

注意事項

すでに持ち株として登録されている組み合わせ銘柄と、組み合わせリストに表示された銘柄が同じ銘柄であった場合、持ち株のサヤ指数と組み合わせリストの銘柄のサヤ指数が異なる場合があります。

株価は日々変化しますのでその銘柄間におけるサヤ指標算出値も変化してきます。そのために仕掛け時点のサヤ指数と、その後の株価の変化に伴うサヤ指数が異なってきます。ただし頻繁に変化するものではありません。時間の経過と共にサヤ指数が変化しても、持ち株はすべて仕掛け時のサヤ指数により決済や増玉の判定を行っています。そのため途中で持ち株(銘柄)を訂正されるとサヤ指数が変化する場合がありますので注意して下さい。

(これらは銘柄の変更の場合です。仕掛け日、株価、株数は変更されても問題はありません。)